

## 試験経過記録（その2）

（様式 4）

日向営林署

（2）クヌギ切断処理木成長量調査

クヌギ樹高成長促進を目的に、地上5cm、10cm、20cmの3通りの切断を昭和59年度に実行し、ぼう芽状況を調査した結果は表-2のとおりである。

表-2

切断箇所	ぼう芽 本数	切断工期	成長量（樹高）cm								備考
			60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度	総成長量	平均成長量	
地上5cm	32本	9.8人	90	(32) 29	(22) 42	(23) 19	(22) 17	(18) 31	228	38	切断本数は各20本 実行
10cm	30	8.4	94	(30) 25	(23) 56	(25) 19	(21) 29	(20) 54	277	46	
20cm	37	7.0	104	(37) 25	(32) 51	(32) 24	(21) 46	(20) 37	287	48	

（注）（ ）の数字は、測定ぼう芽本数

（3）被害木調査

ア. 各種被害調査表（昭57～63） 表-3

樹種	調査本数	寒風害	虫害	兎の害	鼠の害	乾燥害	切害	鹿の害	猪の害	計	枯損率
ヒノキ1条	48			(7)		(1)				(8)	0%
ヒノキ2条	46	(2)	1	(4)		1		1		(6) 3	6
クヌギ1条	48		(2) 3 ①	(2) 2			(2)		1	(6) 6	12
クヌギ2条	46	(7) 5	(1) 2 ②	(1) 1			(5)			(14) 8	17

（注）（ ）は、被害を受けたが再生したもの。平成2年度新規被害は、虫害3本

イ. 表-3の被害木の中から再生したものを、昭和63年2月調査した樹高成長は、表-4のとおりで再生木は健全木に比しヒノキ87%、クヌギ67%の樹高成長を示している。

# 試験経過記録 (その3)

(様式 4)

日向営林署

表-4 健全木と再生木の樹高比較表

樹高	調査本数 (本)	健全木		再生木		計	
		本数	樹高	本数	樹高	本数	樹高
ヒノキ	94	78	279cm	14	242	92	270
クヌギ	92	62	179	19	120	81	167

※平成元年度以降は健全木、再生木の成長差が少ないので調査省略

## 4. 更新及び保育の工期

作業種別の工期は、表-5とおりである。

表-5

年度 作業種	57		58		59		60		61		62		63		元, 2		備考
	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	
地 拵	散布	13.6															
植 付	普通植	21.2															
下 刈	全 刈	4.7	筋 刈	6.6	筋 刈	5.9	筋 刈	5.6	筋 刈	6.0	筋 刈	6.1	筋 刈	5.9	保育なし		

## 5. ヒノキのクヌギ混植区と単植区の成長比較 …… ほとんど成長差はない。

区分 \ 年度	2 年 度		備 考
混 植 区	平均径級 6.2cm	平均樹高 427cm	
単 植 区	// 6.2cm	// 467cm	

昭和 56 年度造林( 楠付 )事業請負実行個所

実測図 字 尾鈴 国有林 17 号外 林小班

作成者 農林水産(技)事務官

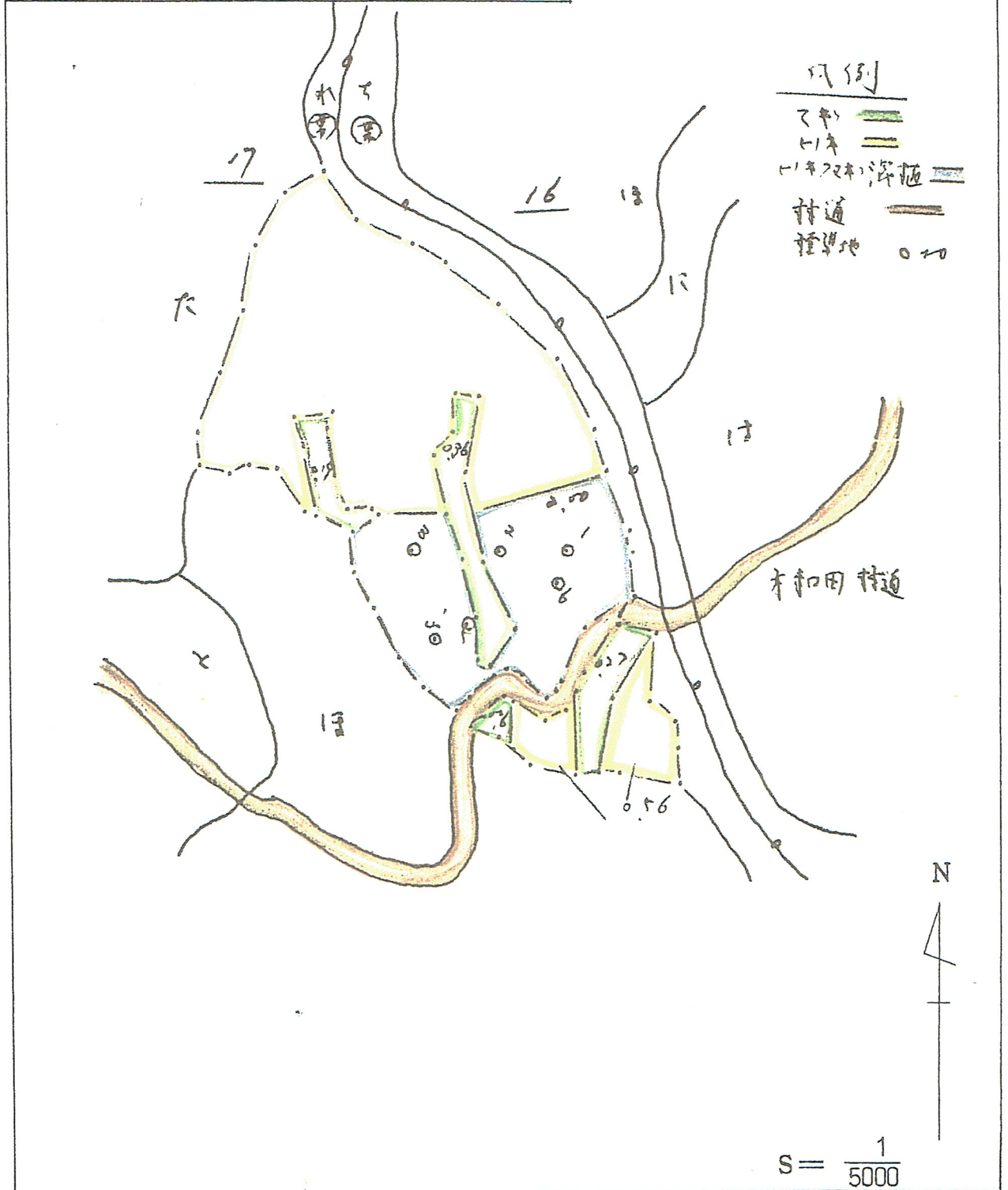
藤田知之

7 号

17 号

17 号. 72 号

記入 番号	記面 番積	除地等 控除面積	標準地 面積	差引請負 実行面積
/	7.84	0.88	4.96	2.00
/				



測量野帳は昭和 56 年度収穫復命書に添付してあるので省略する。 ㊦

# 状 況 写 真

区 分	指 示
-----	-----

日 向 営 林 署

( 様 式 6 )

試 験 地 全 景



成 育 対 照 区 ( ヒ ノ キ ) の 成 育 状 況



# 状 況 写 真

区 分	指 示
-----	-----

日向 営林署

( 様 式 6 )



混植区（ヒノキ，クヌギ）の成育状況



平成30年度 技術開発実施報告

様式 2

日向 営林署

課題	クヌギ退交林施業法				
継続・新規	担	計画課	開発箇所	日向	開発期間 昭和56～平成7
指示・自主 任意	当				
年度別実施経過			〇年度 実施報告		
			(1) 成長量調査		
			(2) 保育方法の検討		

# 試験経過記録（その1）

（様式 4）

日向営林署

課 題	クヌギ混交林施業法												
<p>1. スギ、ヒノキとクヌギの混植、または、クヌギのぼう芽更新を行い、椎茸原木生産と間伐等を組み合わせ合理的な椎茸生産技術と森林施業を確立する目的で、昭和56年度に2箇所の試験地を設定し、調査を実施してきたが、試験地の一つである三方界国有林138に林小班は、野鼠の害によりクヌギが全滅状態となったので、この試験地については昭和61年度で調査を打ち切り、尾鈴国有林17そ林小班についてのみ継続調査を実施しているの、その経過について報告する。</p> <p>2. 試験地</p> <p>(1) 場所 尾鈴国有林17そ林小班</p> <p>(2) 面積 2.25HA</p> <p>(3) 植付 昭和57年3月</p> <p>(4) 植付方法</p> <p style="padding-left: 20px;">ア. ヒノキ1条, クヌギ1条植(3プロット)</p> <p style="padding-left: 20px;">イ. ヒノキ2条, クヌギ2条植(3プロット)</p> <p>3. 成長量調査等</p> <p>(1) 成長量調査は表-1のとおりで、平成4年2月の調査では33cm、クヌギ25cmの成長を示しており、植栽時に対してヒノキ約1.2倍、クヌギ約7倍の成長量を示しており、スギ、クヌギの成長差が拡大傾向にある。</p>													
<p>表-1</p> <p>(注) 63年度以降調査は、再生木の調査数値を含む。</p>													
樹 種	区 分	単 位	s56植栽時	s57	s58	s59	s60	s61	s62	s63	H1	H2	H3
ヒノキ	本 数	本	94	79	79	78	78	78	78	92	92	92	92
	平 均 径 級	c m										6.2	7.3
	平 均 樹 高	c m	37	66	102	144	190	239	279	325	366	427	460
	年 平 均 成 長 量	c m		29	36	42	46	49	40	46	41	61	33
クヌギ	本 数	本	38	57	73	97	123	149	179	192	222	184	184
	平 均 径 級	c m										2.3	2.7
	平 均 樹 高	c m	38	57	73	97	123	149	179	192	222	246	271
	年 平 均 成 長 量	c m		19	16	24	26	26	30	13	30	24	25